



私の趣味《1》

私と車のあぶなかった話

樋口光弘

車と私の関わり合いはかれこれ42年になります。始まりは10年落ちのスバル360。フォルクスワーゲンのカブト虫に似たもので、6万円で購入しました。床から突き出たフロアシフトの脇の洞穴から昇降舵で、夏は外の風を取り入れ、冬は空冷エンジンの熱を導入するようになっていて原始エアコンの役目をしていました。60km/hがやっとで、50km/hで直進がぐらつきます。前開きの2ドアで半ドアで走ったりすると、風圧で突然ドアが開いて車が真横を向いて慌てたこともありました。

横浜市大の皮膚科では車バイク好きと云われているらしく、「神皮」編集委員長の川口先生から車バイクの話、裏話などのエピソードをと、お誘いを受けました。しかし乗った車は約40年間で、先ほどのスバル360、コルト1100、ギャランGTO（1600のもの）、ブルーバード（turbo 2000）、アコード（2000）の5台に過ぎず、車もこれはというものは無く、車は好きですがカーマニアとはいえませんが、私が乗っているバイクは50cc以下のミニバイク、つまり原付でお話になりません。ギャラン以降はそれぞれ10年以上、アコードにいたっては16年乗っています。もうカーステレオはへたって、クーラーも効かなくなっていますが、まっすぐ進む、曲がる、止まるの基本性能はこれまでの車のうちでもっとも信頼が置けるのでまだ乗っています。私ももう新しい車に慣れるのも大変そうでアコードを最後の車にするつもりです。車でヒヤッとしたことは誰しもお有りと思いますが、私にも3度程あります。東名高速で焼津の辺りを走っていて長い丸太が転がっていたのを避け切れた時、首都高速浅田の辺りで土砂降り雨の中でワイパーが急に止まってしまった時（一瞬、左に下りる道が見えて下りることが出来ました）、保土ヶ谷バイパス狩場インターから本線に右から合流する時にスピードを出してトラックの前に入ろうとしたらトラックがスピードを上げた時（こちらもとっさに急加速してトラックの前に出られて助かっ

た。あとで考えるとトラックの後続車はどうか不明だったので、この反応で良かったと思われましたが、そのトラックには後ろめたい思いがしています）の3回でした。その他にも命に関係するような事柄は、お寺の櫻の大木の天辺近くから落ちて運よく枝に引っかかったり、崖から落ちそうになって危うく踏みとどまったり、病院医局で心筋梗塞を起して即PTCAを施されて助かったり、よくも今まで悪運強く生き延びたと思っていますが、その生命の危機の半分に車が絡んでいたことになります。車を制御するのが、同時に2つ3つのことに気が回らないような自分であるからには車を運転しない方がよいとは思いますが、やはり孫悟空の筋斗雲、忍術という縮尺の術の快感があり、運転していて、ままにならないこの世で自分のいうことを聞くものはこいつだけという思いが私にはあります。ただ、免許証の返納の時期は間違えたくないと思っています。

車について思い返してみても、繰り返すすぐ浮かんでくる光景があります。昼間（日曜だったかどうか、季節さえ忘れまじ）、道端にご近所の奥さんが3人立ち話をされているところ、にこにこ会釈しながらゆっくりバックで家の駐車場に入れようとしたら、ドスンと後ろのコンクリ壁にぶつけてしまいました。そのときの奥さんたちの顔のびっくりした、うれしそうな、困ったような表情の一瞬の移り変わりが何年たっても（十数年）鮮やかに浮かんできます。バンパーはかなりへこんでいて、私もかなりへこみました。

私がこのように下手な文を綴るのは、皮膚科医になって44年、茅ヶ崎市立病院時代の28年に、お世話になった神奈川県皮膚科医会と茅ヶ崎皮膚科医会の諸先生方にお礼の意を述べる機会を得たからです。ここまで忍の一字でお読み頂いている先生に感謝いたします。幸い、心筋梗塞も今のところ1度のみで済んでおり、始めの2～3年は狭心症で入院を繰り返しておりましたが、今では横浜の地区セ

ンター等で老人卓球も出来るようになり、囲碁将棋にも励んでおります。おまけの人生を頂いた気分です。茅ヶ崎市立病院皮膚科の2代目小野秀貴先生、3代目掛水夏恵先生もよろしくお願ひします。

最後までお読みくださった先生に何かためになることを書きたいのですが、何もありませんで……。ただバイク、それも原付について2つ。1つめは原付の一時停止の取り締まりは片足を地面につけたか

どうかがポイントであること、2つめは横浜磯子の笹下釜利谷道路（お近くの2車線の空いている道路と読み替えてください）の氷取沢付近は白バイが原付でも捕まえています。30km/h制限の原付で60km/hでつかまると厳しいですよ。人によって場合によって有用かもしれないという位の情報ですが、感謝の気持ちをお汲み取りいただければありがたいと思っております。

私の趣味《2》

続・私の趣味

高橋泰英（高橋皮フ科クリニック：横浜市中区）

何年か前に映画の話を書きましたが、再度何か書いてくれという注文が参りましたので、また拙い文を書かせていただきます。編集委員長が私に原稿を依頼したのは、あいつなら数ある趣味の中から何か書くだらうと思われたからだと思ひます。

アメフト

今を去ること4半世紀前からアメリカンフットボールの観戦にはまっており、年を追う毎に深く深くのめり込んでいます。日本のアメフトの決勝戦・ライスボウルは20年ほど毎年観にいらっています。アメリカのプロリーグの決勝戦・スーパーボウルの日は日本時間の月曜朝なので、毎年休診してテレビ観戦しています（横浜赤十字病院時代同僚だった先生方、毎年1月末に特に理由は言わずに休んでいましたが、そういう訳です。すみません）。本当はアメフトについて熱く語りたところですが、残念ながら日本ではあまりにマイナーなスポーツです。会員の中で興味のある方はごく一部だと思いますので、もう少しメジャーになったら語ることにします。ちなみに2007年7月は川崎市でワールドカップが開かれ、私は6日間で9試合中8試合を観ました（幸い休診せずにこれだけ観られました）。至福の時でした。

さて今回は私の音楽関係の趣味について書くことにします。

映画を観るための音楽的教養

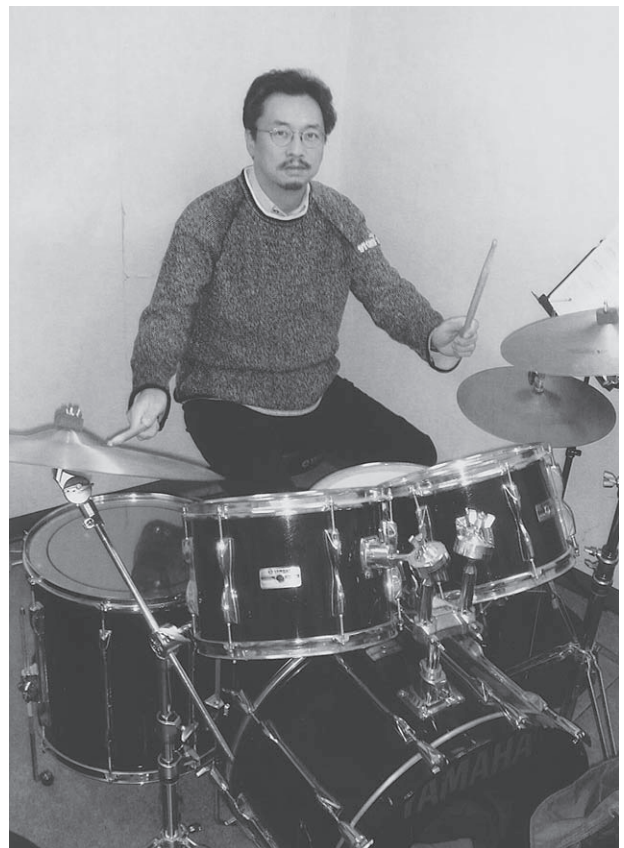
音楽は何でも好きですが、自分の中のHeart & Soulは何ととってもロックです。「音楽に対して教養がある」という言葉があるとすれば、一般的にクラシック音楽に詳しい人のことをいうと思ひます。ロックについてまるで知らなくても、「あの人は音楽の教養がない」と後ろ指を差されることはないでしょう。しかし映画を見るための音楽的教養は断然ロックです。映画の中でクラシックやジャズが使われることも非常に多いわけですが、これはいわばムード作りであり、その曲を知らなくてもある程度の感性があれば作者の意図は伝わるわけです。しかし、ロックはそれが流行った時代を色濃く映し出します。特にアメリカ映画ではバックにロックが流れたり、会話の中でバンド名や曲名が非常に多く出てきます。時々ロックに詳しくない人が字幕を付けると、とんでもない直訳の迷訳が載ることがあります。登場人物がその曲を気に入っているような演出がなされていれば、その人の生活環境や性格も分かってもらいたいという意図が含まれていると思ひます。

知っておきたいのは特に60年～70年代のロック、中でもドアーズは必須です。彼らの音楽が流れるだけで、ベトナム戦争とその反戦運動の時代が浮かび上がってきます。もちろん私の青春時代にぴったり一致しているからそれを強く感じるという面はあると思ひますが、あまりに多くの映画で使われている

ところをみると、個人的体験ではなく普遍性のあるものだと思います。ドアーズについて知りたい方はオリバー・ストーン監督の「ドアーズ」という映画をご覧ください。ヒット曲満載ですし、主役のバル・キルマーが伝説的ボーカリスト、ジム・モリソンを完璧に演じ切っています。時代をうまく切り取って見せており、ストーン映画の中でも1・2を争う出来だと思います。それ以外の代表的なロックナンバーも大まかな年代・時代背景・それを好む客層とともに知っておくと、映画をより深く楽しめるようになると思います。多分にロック好きの私の我田引水的な考えとは思いますが、あの時代を語る映画がまだまだ多い限り、知っていて損はないでしょう。年代順に代表的な曲とその時代背景を知るのに最適なのは「フォレスト・ガンプ」です。この映画はご覧になった方が多いと思いますが、音楽を中心に観ていくとまた違った楽しみ方が出来ると思います。

ライブ演奏

ところでライブの音楽を聴きに行く時、ロック・クラシック・ジャズでは準備が違うというのはご存知ですか？ これは私の持論ですが、ロックのコンサートには予習が必要で、ジャズは不要ないし無用だと思います。クラシックはその中間くらいでしょうか。よほど素晴らしい曲なら、あるいは相性の良い曲なら、初めて聴いても十分楽しめると思うし、新しい曲を知る楽しみもあるとは思いますが、やはり慣れ親しんだ曲の方が安心して聴けますし、激しくノレるわけです。ロックコンサートで新しいアルバムを演奏されると、明らかに聴衆のノリが悪いのが分かります。自分だけ予習をサボって行った場合は、周りから取り残されて惨めな気分になります。クラシックではこのあからさまな取り残され感は免れるかもしれませんが（周囲にノリノリの人がないので）、やはりよく知っている好きな曲を聴く方が浸れるのではないのでしょうか。逆にジャズでは特にインプロビゼーション（いわゆるアドリブ）が激しい演奏では、なまじ知っている曲でそのアルバムの演奏が気に入っているという場合は、全く違った曲に聞こえて違和感を覚えたり、反感さえ覚えることがあります。ジャズはそういうものなので、こちらの心構えが悪いわけですが、それならむしろ全く知らない曲か最初から違う曲として聴いた方が



“熱中症”に罹患したオヤジドラマー

私の場合は楽しめます。逆に傾向さえ合っていれば、全く知らないバンドの演奏も始めから興奮して入り込めるわけです。

オヤジバンドの隆盛

最近、楽器屋のギターコーナーに行ったことがありますか？ 昔ならギター小僧ばかりがいたはずですが、今はオヤジが群がっています。世にいうオヤジバンドブームは本当のようです。かくいう私も2006年秋からドラムを始めました。昔からドラム・パーカッションが好きで、ライブなどでもギターよりもそちらの演奏に釘付けになっていました。昔からやっているロックの会（ロックのライブバーなどで、ロックのトリビア問題を出し合いながら酒を飲む会）でバンド結成の話が出たことがあります。初めは冗談かと一笑に付していましたが、そのうち本気でやろうということになりました。神奈川県皮膚科医会40周年記念の「JIMPI BAND」に刺激を受けたのが、大いに影響していると思います。その年の10月からヤマハ音楽教室でドラムレッスンを開始しました。本物のドラムは防音室がないと無理なので、自宅では電子ドラムで練習しています。ゼロからの出発（それまでスティックを握ったこともあ

りませんでした) というのはすごいことです。上達あるのみです。世間的なレベルでは全くの初歩なわけですが、自分の中ではどんどん上手くなるので楽しくて仕方がありません。練習しても全く上達しないゴルフとの違いはあまりに大きく、反動でますますゴルフが嫌いになってしまいました。12月からは月に1度の合同練習が出来るようになり、今ではほぼ完璧なもの、かなり危なっかしいものも含めてレパートリーは17曲になりました。私などは曲の流れがどの辺りにあるか把握するのが精一杯ですが、ベース担当は誰がどこを間違えたか的確に指摘できるので驚きです。音楽教室の教師によれば「ベースは全体を見渡してまとめる役割がある」そうで、彼は適任らしいです。私生活でも周りに人を集めて、色々な行事を企画するのが好きな男です(ロックの会も彼の発案)。楽器毎に性格の相違があるというのをどこかで読んだ気がします、ドラムがどんな性格なのかとても気になります。

ところでどなたもご想像いただけるように、練習後のビールは極上の味です。今我々は、月1回のビー

ルのために仕事をしているようなものです。この時次の曲を決めます。これがまたときめきの時間です。楽譜を見てこれなら出来そうだと判断するのですが、「オイオイ、いつから皆そんなに音符が読めるようになったんだ?」と、自分達でも不思議な気分です。みなそれぞれ上手くなっているのですが、1つだけ悩みがあります。まともなボーカルがいないことです。いくつか素人バンドを聴いた経験からいっても、あらゆる楽器の中で一番難しいのは歌です。ボーカルが光るバンドはみたことがありません。そういう訳でうちのバンドのデビューは永久になさそうです。

バンドをやるようになってから、とても変化したことがあります。同じ曲を聴いても、今までとは聞こえてくる音が違うのです。こんなに細かいテクニックを使っていたのかと感心したり、時々いとおしくなるほど魅力的な一打を発見することがあります。オーディオ機器には全く興味がなかったのですが、やはり少しはいい機械で隅々の音まで聴いた方がいいのかもしれないと思う今日この頃です。



私の趣味 《3》

趣味は碁・橘中楽

花岡宏和 (花岡皮膚科クリニック：横浜市中区)

趣味はと聞かれると、本当はテレビを見ること、と答えることになります。家に居る間はいつもテレビをつけていますから。テレビが始まった頃、力道山や若ノ花・栃錦、美智子妃殿下の御婚礼の映像など、遠い世界の出来事が眼前に見られるという新しい科学に心酔しました。でもそれ以後の進歩、IT、メールなどにチャレンジせず、全く時代遅れとなっております。

人間は最も多感な青春기에 馴染んだものが、その人の心の根っことなるように思います。

ジャズ、エド・マクベイン、ヘップバーン、ジョン・ウェインに時間をとられ、スカーレット・オハラにスカートにときめきつつも理想像はフジ子、などなど。その後、変化や進歩をし損ねています。

趣味の囲碁について書けとのことでした。そうです。囲碁が好きです、というより憑かれています。

でも神皮には、北村創先生というとても怖い怪物がおられます。この世界ではアマチュア離れした有名な強者で、碁会所の番頭もつとまる程です。六段以上貫えない現行では、幻の九～十段でしょう。彼に四～五目も置く小生などが碁を語るなどおこがましいのですが、囲碁愛に免じて許しを乞うことにしました。

碁は面白いです。初めは、大学の学生ホールで麻雀の面子の待ち時間潰してでしたが、いつのまにかはまってしまいました。

通常の十九路盤だとひと勝負に一時間半もかかり、取り付きにくい印象をもたれていますが、最近

子供や初心者に普及している九路盤だと短時間で勝負が決着します。二眼の生き死にの有無さえわかるようになると、ぐんと面白くなります。アタリ、ゲタを会得し、天井の板目にシチョウを追いかけて、やがて三・四級になると、ゴルフでハーフ40台の出始めのような、高揚した楽しさが生まれます。初段の声を聞くと、もう一生、碁から離れられなくなるでしょう。

碁はルールが一番少ないゲームです。2つだけです。囲めば相手の石が捕れ、それを捕虜にして陣地の多い方が勝ち。もう一つは“劫”といって、同箇所に両者が打てるケースで、一回外してから打てるというルールです。単純なゲーム程知恵を要求されて奥深く面白い道理です。チェスはどうかやらコンピューターに抜かれたようで、将棋もそろそろと云われていますが、碁は複雑で永久に追いつかれたいでしょう。日本棋院の最上の対局室の掛軸は「深奥幽玄」です。小説「名人」を書いた川端康成の筆ですが、皆我意を得たりと納得のようすです。

古代の中国に始まり日本に渡って発展した碁は、平安朝でもたしなまれ、紫式部と清少納言が対局したとは眉唾ですが、貴族達の棋譜は残っているようです。江戸時代は官制になり、四家の碁所による時間無制限の御城碁の争いなど興隆し、その功を徳として徳川家康は2人の本因坊と並んで日本棋院の殿堂に列せられています。

皇室の立太子礼で、あまねく世界を示す碁盤の中央点・天元に立つ習いもあります。

このように数百年間は日本のプロの技量が断然トップでしたが、最近は韓国・中国に負けています。でも「ヒカルの碁」ブームから、多くの子供達が打つようになり、日本の巻き返しが期待されています。碁は少しでも幼時期に始めると強くなれますから。韓国では日本よりはるかに多くの子供囲碁教室があり、親も、頭がよくなるという理由で通わせています。碁は右脳も左脳も使うようで、なるべく若い時期から始めるとよいようです。小学生名人はプロのタイトルも望めますが、中学ではもう遅いと云われます。囲碁の強豪校は、灘・麻布・筑駒などの受験校です。頭脳の緻密な発育に資すると云われる証明の1つです。碁家の子息で、碁のプロに合わない人は仕方なく理3に行くという（木谷家の例）ような

すごい世界でもあります。

碁のプロの頭脳には実に驚嘆させられます。何十年も以前の打ち碁の一手一手を覚えているのは当たり前で、我我之の多面打ちの指導碁でも全部再現して教えてもくれます。或る九段のプロは、若手院生達の10局の打ち碁の解説を書いたあと、その記者が原稿を電車で忘れて助け舟を求められた時に、戻った記者に全10局の棋譜を完全に思い出して解説を付けて渡したという逸話があります。一流の人のすごさには、他の世界でも似た話があるのでしょうか、でも驚きです。

囲碁由来の言葉も、駄目（無駄な目）や岡目八目など多くあります。

囲碁の別称を幾つか紹介します。烏鷲（つまり白黒）の争い、手談（手で会話する芸）、橘中楽（仙人が橘の中に隠れて碁に興じていたという昔話）など。

道具もピン・キリです。碁盤は眞四角ではなく、45～42センチ。縦横の19の墨線は日本刀でつけるのです。最高の7寸高の上下柁目の柁盤は、打った手指に柔らかく感じ、少し窪んで翌日は元に復元しているそうです。

「定石を覚えて二目弱くなり」「一手目はへボとは言えど小目なり」碁の川柳は実に的を得ています。落語の笠碁で、「碁仇は憎さも憎し、懐かしや」と言える小生の神皮の碁仇は、富沢尊儀アマと菅原信アマでしょうか。

碁が強くなるには、定石集を読み、名人達の棋譜を並べ、詰碁を解き、多くの対局をする、その全部が大切です。時間がいくらあっても足りません。最近ではコンピューターを使う人なら、世界中の人とネットでいつでも打てるのですが。

このように碁をしゃべるときりがなくなって、つい長くなってすみません。でもどなたか対局して下さる方、或いは碁を習いたい方いつでも御相手に出かけます。が、初心者に飽きさせないコツは、負けてあげるのが一番だそうで……う～ん、男には無理かな。現に羽根直樹元棋聖は、父親の泰正プロではなく、母親が優しく負けてあげて教えたから今があるのだとか。子供は褒めて育てるのが一番ですが、でも負けるのは男にはどうも難しくてね。……すみません。またついつい橘中楽で長くなって。書けと命じた編集の先生のせいにしましょう。

私の趣味《4》

仮面ライダーだいすき

小川純己 (日本鋼管病院：川崎市川崎区)

「仮面ライダー、本郷猛は改造人間である。彼を改造したショッカーは世界征服を企む悪の秘密結社である。仮面ライダーは人間の自由のためにショッカーと戦うのだ (声：中江真司)」

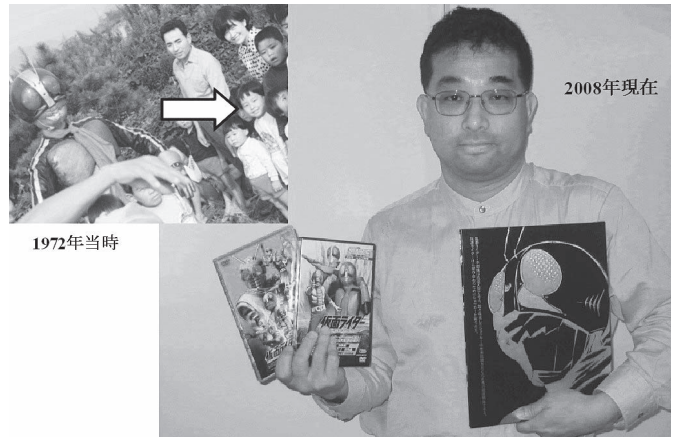
ご存じ、仮面ライダーのオープニングナレーションである。正義と悪の二元論。正義は最後に必ず勝つ。この単純明快な道德規範を、僕たちは仮面ライダーから学んだ。

変身ベルトを腰に巻き、左肘は90度折りながら両手を水平右側に構え、「変身」のかけ声とともにぐるっと上から左に両腕を回す。収まる場所は、左腕はポパイの力瘤のポーズ、右腕は拳を心臓の位置に。一文字隼人、仮面ライダー2号の変身ポーズは当時の僕たちを虜にした。凶悪なショッカー怪人には、日常の姿では太刀打ちできない。正体を隠すために仮面をかぶるのではなく、改造人間が本来の能力を発揮するために、姿、形を変える。それが変身なのである。

初期の本郷猛、仮面ライダー1号は、変身ベルトに風を受けることで変身した。風力という自然の力を利用し、飛蝗^{バッタ}の異形をその仮面に備え、愛機サイクロン号にまたがり嵐と共にやってくる。華麗なトランポリンアクションと、とどめの「ライダーキック！」に僕たちは狂喜した。

次に登場した仮面ライダー2号は、変身ポーズでベルトの風車が回り変身する。僕たちは変身のために、自転車で坂道を疾走する必要が無くなった。滑り台のてっぺんで変身ポーズを取れば、誰でも仮面ライダーに変身できた。電池で風車が回るライダーベルトは引っ張りだこだったが、変身ポーズと同期がとれないため、スイッチ係に横のスイッチを入れてもらう必要があった。力関係の弱いものは、スイッチ係か「イー！」の戦闘員をやらされた。

敵方、ショッカー怪人は蜘蛛男、蝙蝠男など「～男」形式が有名だが、怪獣とは違う、等身大の恐怖で子供たちを怖がらせた。怪人が怖ければ怖いほど、



仮面ライダーの強さが引き立つのだ。眼窩裂が露出したピラザウルス、顔がないのに妙に強いスノーマン、胸の渦巻きが悩ましい蜂女。怪人達を率いる大幹部、天本英世演じる死神博士はおどろおどろしく、潮健児の地獄大使は残忍だった。極彩色の異形を僕たちは菓子のおまけで学習した。カルビー「仮面ライダーズナック」は、おまけに怪人や仮面ライダーのピンナップ、ライダーカードがついており、当たりのカードが出ればアルバムがもらえた。僕たちはコンプリートのために小遣いを全てライダーズナックにつき込み、トレードを通じて社会性を勉強していった。その一方で、甘めの味付けの snacks はいらないとゴミ箱に捨ててしまう子供も続出し、ライダーごっこで友達に跳び蹴りを食らわす風景とともに社会問題になった。

仮面ライダーの魅力として忘れてならないのはその音楽である。作曲者は菊池俊輔。アニメ「ドラゴンボール」や時代劇「暴れん坊将軍」、なつかしの「Gメン'75」の主題歌が有名である。燃えるテイストが持ち味だが、「一人ゆく、一人ゆく、仮面ライダー」の孤独な寂寥感は、聞かたびにのどの奥に錆くさい子どもの頃の思い出を甦らせる。

さて、ここからが本当の「趣味」の世界=大人になってから学んだコトである。仮面ライダー2号登場の経緯はご存じだろうか。

仮面ライダー1号、本郷猛を演じる役者、藤岡弘



©石森プロ・東映
 〈出典〉 講談社 Official File Magazine「仮面ライダー」0号

はバイクアクションやスーツアクションも度々こなしていた。しかし、それが災いして第10話を撮影中にバイク事故で左大腿骨を複雑骨折し、全治6ヶ月の宣告を受けてしまう。主役の現場離脱に対し、制作サイドは本郷猛の出でこない脚本や、ライブフィルム、再生怪人の話を何とかひねり出し、第14話から主役交代とあいなった。企画段階では主人公が死んでしまうパターンや、ショッカーに捕まり形成手術されて別人になるパターンなどが検討されたらしい。本編では、ショッカーの企みを追ってヨーロッパに渡った本郷猛に代わり、あらたに仮面ライダー2号が日本の守りを任された。ヒーローは絶対に死なない、という作り手側の強いメッセージが、そこには込められている。「風のようにあらわれて、嵐のように戦って、そして必ず朝日とともに帰ってくるんだ」

仮面ライダーの鑑別表を下にあげる。鑑別の難しいショッカーライダーとの違いも一目瞭然である。

旧1号は第1話から第13話まで。怪奇性の強いパートで、変身ポーズはまだ無い。飛蝗のイメージが強い地味な配色である。

第14話から第52話までが旧2号編。一文字隼人のキャラクターがお茶目かつスポ根チックで私の思い入れが一塩の所。暗いシーンでライダーの動きが

はっきりしないことから、腕と脚に銀の縁取りが加えられ、眉間と口も銀色に変わった。第40、41、49話など旧1号が共演し、ライダーキックの効かない強力怪人にダブルライダーで立ち向かった。

第53話から第98話までは本郷猛が復活し、新1号編となる。1号だが身体の縁取りは2本というところが味噌である。「技の1号、力の2号」と言うフレーズはこの頃確立された。これは仮面ライダーV3のオープニング「力と技の風車が回る」の歌詞に繋がっていく。

新2号は第72、73話の南紀ロケ編、第92、93、94話のにせライダー編、最終のゲルショッカー壊滅編と、重要どころにゲスト参加した。本郷猛と一文字隼人を一つのアングルにとらえ、ダブルライダーが同時に変身するシーンはもう鳥肌物である。

仮面ライダーは親の世代の物かという、これが子ども達も結構楽しんでくれる。毎朝、出勤前の気合い入れに変身ポーズを取ると「パパ、かっこいいね」と娘が声をかけてくれる。1歳になる息子にも、時がくれば仮面ライダーの英才教育を施す予定である（さすがに改造はしないけど）。

仮面ライダーの資料はDVD、書籍ともに結構豊富だが、何か1つ手に取ってみるなら村枝賢一の漫画がおすすめである。テレビ放映の味に一番近くて、あの日の熱き思いを再現できる。ある面では原作者石ノ森章太郎を越えている感すらある。みなさま、是非どうぞ。

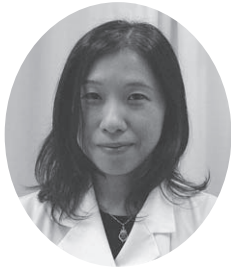
〈参考文献〉

小田克己、村枝賢一「仮面ライダーをつくった男たち」講談社、2007

TARKUS編「仮面ライダー大研究」二見書房、2007

石ノ森章太郎、村枝賢一「仮面ライダー SPIRITS」マガジンZKC 1～13巻、講談社

	旧1号	旧2号	新1号	新2号	ショッカーライダー
変身のかげ声	なし	「変身」	「ライダー変身」	「変身」	—
マスクの色	深い青	黒みがかった緑	銀色に輝く緑	銀色に輝く緑	銀色に輝く緑
手袋、ブーツの色	青緑	青緑	銀	赤	黄
ベルトの色	白	赤	赤	赤	赤
マフラーの色	赤	赤	赤	赤	黄、白、青、緑、紫、桃
四肢の縁取り	なし	銀、1本、太	銀、2本、細	銀、1本、細	銀、2本
身体の縁取り	なし	なし	銀、2本、細	銀、1本、細	銀、2本
変身前	本郷猛(藤岡弘)	一文字隼人(佐々木剛)	本郷猛(藤岡弘)	一文字隼人(佐々木剛)	—



私の趣味《5》

“大人の”バレエ

河原由恵 (けいゆう病院：横浜市西区)

最近ハマっていることを尋ねられ「バレエです(みるだけではなくやっています)」と答えると、球技を想像される方が多く、「え?」といわれることがよくあります。バレリーナの姿を思い浮かべれば、この私と結びつかないのがやむをえないのは重々承知ですが、実はここ数年スリムな少女達ばかりでなく、大人の間でもバレエが静かなブームを呼んでいるのをご存じですか?

少子化のため子供だけを相手にしてはバレエ教室も立ち行かないのかもしれませんが、それ以上に“バレエをやりたいがチャンスがなかった”“とうの昔にやめてしまったがまたやりたくなった”という人は意外と多く、習う側からのニーズで自然発生的に大人向けクラスが増えてきたものと思われる。少数ではありますが、男性の生徒さんもいます(昔、熊川哲也を目指していた?)。

このちょっとしたブームは、昨年春に放送された「プリマダム」というTVドラマでさらに拍車がかかりました。このドラマは、子供のころ同じバレエ教室で切磋琢磨しあった黒木瞳さん演じる今は専業主婦の女性と中森明菜さん演じるバレリーナが再会し、黒木さん演じる女性はバレエへの情熱を、中森さん演じる女性はあまり省りみなかったまわりの人達との関係を再び取り戻していく、というストーリーです。ドラマ中、黒木さん演じる女性が通う“大人のためのバレエ教室”のシーンが頻りに登場し、私たち“バレエに憧れていた人間”のハートをわしづかみにしたのです。身軽な少女でなくともできるバレエがある!と。

もちろん今思えば、30~40代とはいえ宝塚出身の黒木瞳さん、その他スタイル抜群の俳優さんたちが演じていたわけですから自分にあてはめるなんておこがましいのですが。

さて、私は「習ったことがあるがとうの昔にやめてしまった」人間ではなく、まったくの初心者ですが、憧れだけは幼稚園児の頃からもっていました。

幼稚園でバレエ教室が行われており、そこに通っていたナホコちゃんというお友達がいました。彼女は私と同じくらい髪をのばしており、同じ制服を着ていたわけですが、日常の仕草ががさつな私達のそれとは違う、と子供心に思っていました。学芸会でも踊りのたくさんある役を当てられます「きっとバレエ習ってるからだ!!」と私は信じていました。(実際はそれだけではなく、標準以上に可愛い女の子だったから輝いてみえた、というのも重要事項だったに違いありません)。続いて小学校の低学年のころ、スポ根ドラマのひとつとして「赤い靴」という新人バレリーナを主演にしたTVドラマがあり、夢中でみていました(またTVの話で恐縮です)。小学生向けの雑誌ともタイアップして結構人気で、それをきっかけにバレエを習う子供が少し増えたように記憶しています。その時、バレエを習いたい、と親に強烈にねだれば、今この原稿を書いている私はいなかったかも?(そんなわけないですね)。話はそれますが、主役を演じていたのは当時売り出し中の本当のバレリーナで、今回この原稿を書くにあたりインターネットで調べたところ、今でも指導者として活躍されていて写真を拝見することもできたのは感激でした。

結局、時々観客になることはありましたが、習う機会は持たず、30ウン年がたちました。昨年TVドラマ「プリマダム」により眠っていた潜在意識を刺激された私は、これが最後のチャンスと思い、ついに本当にレッスンを開始してしまった、というわけです。

なかなか時間はとれませんので月2回くらいがせいぜいですが、1時間のレッスが終わると、背筋がしゃきとした感じがします。バレエのよいところは激しい動きではないのですが、柔軟性やインナーマッスルも含めた筋力強化を行える点です。ちなみにバレリーナが軽々と片脚で立ったり空中を舞ったりするには、軽量であるということもち

ろんですが、自分の体を上方へ保つ筋力が重要とのことです。素人なりに体が重いうまく動けず、レッススタジオの鏡に写る自分の姿にもげんりするので、多少は食事にも気を遣うこととなります（ただし数日のみ）。動きが身について無意識のうちに日常の仕草に結びつくようになれば、さぞかし優雅な女性になることでしょう。

エクササイズの中には家で行えるものもあります。この年代になって柔軟性が戻るなどありえないと思っていましたが、毎日地道に取り組むことでアップしていきらしいです。同じレッスンに通っている方で180度前後開脚ができる生徒さん数人がいますが、みな経験者ではなく2、3年かけてできるようになったとのこと。驚きです！ もちろん私はトゥシューズをはいて舞台に、などということは目指していないので、バレエの動きを基本にしたエクササイズをしているだけですが、練習用シューズは2足目になりました。昔ちょっと自慢だった柔軟性



練習用の私のバレエシューズ
(実際はいて踊っているところはともお見せできません)

が少しだけ戻り、姿勢にも気を配るようになった気がしています。

というわけで、私が某曜日の行事予定に難色を示す場合は、事情をお察しいただけると幸いです。

Information

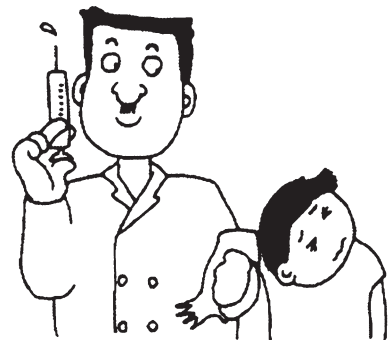
原稿募集

随筆 写真 絵 イラスト 何でも歓迎いたします。

以下の様な仮の題にても原稿をお待ちしています。

- A) お宝拝見 → 秘蔵の一品
- B) 秘伝&私の工夫etc.
- C) うまくなならないGolfの話
- D) 患者さんに教わったこと
- E) 教授こぼれ話
- F) 私の近くのこんな店

等です。どしどしお寄せ下さい。原稿は原稿用紙数枚分(最長10枚)。パソコンで書かれた方は、フロッピーまたはCD-Rも送ってください。顔写真(スナップでも構いません)もお願いします。原稿・写真はE-MAILでも受けつけます。10月末までにいただいた原稿は、翌春の号に掲載いたします。



宛て先

〒236-0021 横浜市金沢区泥亀2-8-12
金沢皮膚科 川口博史

TEL 045(791)5510

FAX 045(791)5514

E-MAIL kanazawa.hifuka@seapple.icc.ne.jp